MY Pleasure

喜び・感謝伝える“マイプレジャー”

2014 Winter Vol.14

For Our Pleasure
アートディレクター
ジョー・マスザワさん

ウエディングをもっと素敵に!
心がふれあうオシゴト拝見
Dog's life PANNA 代表
山田陽子さん

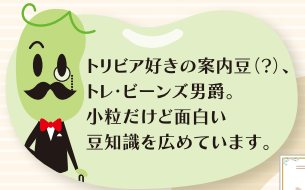
Personal Facts
フォトグラファー
村上洋平さん

New Release
TREAT + Joe
Wedding Paper Anthology

創業50周年特集

みんなに伝えたいマイプリントのトリビア

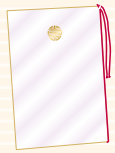
マイプリントは今年で創業50周年。当コーナーは今年いっぱい
弊社の知られざるトリビアをお伝えする、特別バージョンでお送りいたします。
今回は席次表に関するトリビアをご紹介。トリビアを知るって、とってもトレビアーン!!



トリビア好きの案内豆(?)、
トレ・ビーンズ男爵。
小粒だけど面白い
豆知識を広めています。

もっと便利なものを・・・マイプリントの挑戦から生まれた席次表

遡ること48年、1966年当時は「席次表」はなく、受付で「もぎり」を配り、ゲストは「もぎり」に書かれたテーブル記号を頼りに自分で席を探すというスタイルでした。そのため、ゲストは同じテーブルに座る人でも、知り合いでなければその人が誰なのか分からないということもあったそうデース。そんな時、ある式場の担当者から、「もぎりよりももっと便利でいい方法ってありませんか」という相談を受けて、「もぎりにかわるもの」の開発がスタート。当時のマイプリントの担当者は、現場にヒントはないかとホテルをうろうろ・・・。そんな時、宴会の時にサービス員が使用していた、席の位置や引出物、注意事項等を手書きで書いた会場レイアウトともぎりを融合したら、今よりもっと便利になるんじゃないかと閃いたのデース!!そして試行錯誤の末、現在の席次表が完成したそうです。ちなみに当時は「配席表」と呼ばれ、「席次表」と呼ばれるようになったのは1977年のことでした。



リリース当時のデザインは和の商品が多く、1977年にリリースした「ジョイシリーズ」は、直刷りの2つ折りや3つ折りの仕様で、ラインナップもほとんど和のスタイル。その後1984年には「ニュージョイシリーズ」をリリース。仕様は紅白や金の紐で結ぶタイプの他、挙式スタイルでチャペル式が増えてきたこともあり、洋デザインのリリースも開始。チャペル式が浸透した頃には最先端のアイテムを探しにアメリカへも調査に行ったそうデース。

新しいものへの抵抗からか、当初はなかなか受け入れられなかった席次表。しかし、列席したゲストのクチコミ等から、徐々に席次表の良さを分かっていただくことができ、席次表は首都圏から全国へと拡大していきました。今では当り前になった「席次表」ですが、ここまで認知が広がったのは、より便利で斬新なものを提供したいというマイプリントの思いが伝わったこと、そして何よりも皆様のご愛顧のお陰なのです。それでは、次回のトリビアもお楽しみに!!オ・ルヴォワール!!

50th Anniversary

編集後記

2014年、マイプリントはおかげさまで創業50周年を迎えることができました。そこで今年のMYPleasure「ニッチなトリビア」では、マイプリントの歴史を辿り、「えっ?そうだったの?」というようなマイプリントトリビアをご紹介していきます!今では当たり前のあの商品の発祥は実はマイプリントだった!?等々、50年の歴史の中には沢山の秘話がありました!ぜひ楽しみにしてくださいね!(柳瀬)

★表紙の写真は、Personal Factsにご登場いただいた村上洋平さん撮影の「THE TREAT DRESSING 2014 メンズコレクション」

株式会社マイプリント http://www.myprint.co.jp/ 〒206-0025 東京都多摩市永山 6-11-11

チャレンジし続けることで、ペーパーアイテムの新しい可能性を広めたい

今回は、数々の著名人のペーパーアイテムを手掛け、
マイプリントからも商品をリリースしているアートディレクター、
ジョー・マスザワさんにお話を伺いました。

サテンリボンで包まれたラグジュアリーなカード。パーティへの期待感に心が踊ります

マーケティング出身だから見つけられたニッチなビジネス

以前は映画会社の20世紀FOXでマーケティングをしており、転勤で10数年前に日本にきました。たまたま日本で結婚式に何回か招待されたのですが、どの結婚式も、招待状はアイボリー系にゴールドの紐をあしらったオーソドックスな物でした。違う人の結婚式なのに、なぜ皆同じような招待状なのかと疑問に思い、日本人のスタッフに聞いてみると、「これしかないから」という答えでした。また、日本ではプライベートのパーティや企業主催のイベントの招待状もほとんどがハガキのDM。ハガキはアメリカではチープなイメージですので、とても驚きました。

そうした体験から、20世紀FOXを退職して、何か違うビジネスを始めようと思ったとき、招待状などのペーパーアイテムにニッチな市場があるのではと思ったのです。まずはサンプルを作って、知り合いにプロダクトマーケティングを実施しました。通常の招待状と比べてどちらの招待状を使いたいか、またサンプルで作ったタイプを使う場合、金額はいくらまでなら出せるかなどをリサーチしました。その結果が思った以上に好感触で、ビジネスにできるのではと思い、仕事を始めたのです。

既成概念にとらわれず、常に新しいことにチャレンジ

デザインをする上で大切にしていることは、クライアントの要望にあったオリジナルのデザインを作ることです。クライアントの人柄や雰囲気、好み等を考えながらデザインする感覚はとても好きですね。しかしながら日本では、古くからある慣習にならい、文字の印刷は黒にしなければいけないなどの決まりごとが多く、デザインしたいものがなかなか受け入れられないケースが多々ありました。私としてはやはりどこにでもあるようなデザインはしたくないと思っていますので、クライアントの要望に応えることはもちろん、既成概念を払拭できるようなデザインにチャレンジすることこそがこの仕事の楽しいところだと思います。

活版印刷を思わせる質感で、ビンテージな世界観を表現

幅広い方がターゲットのデザインは、沢山の方に受け入れてもらえるデザインであることも重要ですが、その中でいかにオリジナリティを出すかも重要だと思っています。今回のトリートさんとのコラボレーション商品では、トリートさんの「大人可愛い」世界観がうまく表現できたと思います。洗練されていて、しかも遊び心もあるデザインは、おふたりだけでなく、受け取ったゲストにも喜んでもらえるのではないかと思います。

夢はウエディング業界をペーパーアイテムから変えていくこと

ビジネスをはじめた当初の夢は、日本のウエディング業界に様々なペーパーアイテムを紹介して、その面白さや可能性、そして世界観を広げることでした。例えば招待状だと、現在では招待状自体のデザインは多種多様になってきましたが、同封する会場地図や封筒、封筒に書く筆耕のスタイルなどは、まだまだデザイン性があるとは思えません。招待状のデザインにこだわっていても、それではトータルコーディネートとは言えないし、せっかくのデザインがもったいないとも思います。招待状、メニュー表、席札、席次表のベーシックな4アイテムだけでなく、それらに付随するパーツやその他のアイテムにも変化を起こしていきたいですね。

シーズンやパーティコンセプトによって季節のお花をデザインしたり

当初の目標は、まだ途中ではありますが、少しずつ変化に手応えを感じています。今後は、ウエディング業界の変化をペーパーアイテムだけではなく、日本にはないデザインやウエディングアイテムを使って、さらに面白いことができればと考えています。そして業界自体も、既成概念に縛られず、色々なデザインやスタイルに目を向けて欲しいと願っています。

ジョー・マスザワ
JOE MASUZAWA DESIGNS代表・アートディレクター

米国カリフォルニア生まれ。招待状はお客様の特別なシーンにおいて最初にゲストが受け取るもの。その第一印象の大切さを熟知した世界観からはこれまでの招待状では考えられなかった質感やフォルムが生み出され、受け取った人々を魅了し続けている。この感動が広まり、現在多数の有名人・著名人の結婚式や企業イベントの招待状を手掛けている。

ウエディングをもっと素敵に！
心がふれあうオシゴト拝見

高いプロ意識と親身なトータルサポートで、飼い主様とペットの生活をより良いものに

家族の一員であるペットとのより良い関係づくりや、ハッピーな生活をサポートする犬のプロフェッショナル、Dog's life PANNA代表の山田陽子さんにお話を伺いました。

ペットホテル フリースペースの様子

✲Dog's life PANNAの仕事とは？

ワンちゃんの販売やペットグッズの販売、トリミング、ペットホテルの運営をしています。この仕事を始めたきっかけは、たまたま友人や知人が同時期にワンちゃんを飼い始めたのですが、その時ペットショップの管理の問題や、ワンちゃんの先天性疾患などの問題が意外と多いことを知ったことが大きいですね。そこで自分でいろいろ勉強したり、また、遺伝学などから一緒に考えてくれるブリーダーさんを探して、10年前にワンちゃんの販売をスタートしました。おせっかいな性格なもので(笑)、飼い主様の相談に乗っているうちに、アフターケアもできる環境をその後徐々に作っていったという感じですね。

✲仕事をする上で大切なこと

ある日のペットホテル

一番大切なのは飼い主様とのコミュニケーションです。飼い主様は「自分が一番、この子のことをわかっている」と思っています。ただ、私たちプロから見ると、思い込みをされていることや、解釈が違っていると思えることもあります。そんな方にいかに正しい情報をお伝えするか。難しいことですが、誠心誠意お伝えすれば、飼い主様も徐々に耳を傾けてくださいます。飼い主様にもご理解いただけて、飼い主様とペット、両方のお役に立つことができた時は、本当に嬉しいですね。

✲これから目指すもの

今後は、動物病院とペット専用のジムの運営も考えています。ジムはダイエットやリハビリなどのケアまでできればと思っています。それに加えてペットの老後をお世話する施設も作りたいですね。お店をオープンしてから10年経って、PANNA出身のワンちゃんも高齢といわれる世代に入る子が増えてきました。Dog's lifeという名前からも、よりトータルなサポートができるよう、環境を整えていきたいです。

✲この仕事に向いている人は？

動物好きであること、体力があることはもちろん、適度に鈍感力のある人ですね。この仕事は、予想外のことや思い通りにいかないことの連続です。お預かりするペットに思い入れ過ぎてしまったり、仕事の中で一喜一憂し過ぎてしまうと仕事になりません。また、ワンちゃんは時に予測不能な動きをしますので、すぐに反応できる瞬発力、そしてワンちゃんの気持ちや行動を考えられる洞察力も大切です。

店舗外観

こだわりのグッズであふれる店内

プランナーの皆様は結婚式という人生の一大事を迎える人と接するデリケートなお仕事をされていると思います。そこに私たちの仕事との共通点もあるように感じます。大変だけれど、ハードルは高ければ高いほど、越えた時の達成感も大きいと思いますので、お互いに頑張っていければと思いますね。

山田 陽子
(Dog's life PANNA 代表)

幼少の頃から動物好きで2003年からペット販売をはじめる。より優れたアフターケアとトータルサポートを目指し2009年Dog's Life PANNAを開業。ワンコたちとの更なるハッピーライフをご提案できるよう目指しております！

Dog's life PANNA
ペット・ファッションアイテム・フード・サプリメント・ケア用品販売、ペットのトリミング、エステ、ペットホテルなど
http://panna.co.jp/

Personal Facts

今号から始まる新コーナーでは、ウエディング業界を元気にする方たちが、どんな「成分」で出来ているのかをクローズアップしていきます。今回は今冬リリースの『TREAT+Joe Wedding Paper Anthology』のイメージカットを撮影された、元ウエディングプランナーの村上洋平さんの魅力のヒミツに迫ります。

成分：縁
それはもう、99.99999…%が「ご縁」ですね。

前職はウエディングプランナーですが、実はウエディング業界にはまったく興味が無くて…。間違って会社説明会に行ってしまったんです(笑)。キッチン器具の設計士を目指していた学生時代、就職先の希望として挙げた企業は全てキッチンメーカーでした。僕の就職活動が本格的に始まった大学3回生の冬、リクナビである会社の採用ページを見つけ、その洗練された空間に感動したんです。こんな素敵な設計をする会社のキッチン設計部門で働きたい!!すぐにエントリーしたのが全てのきっかけでした。

「しまった!!」と思った時にはもう遅く、1000人以上の学生がざわめく会場のど真ん中に席を陣取ってしまい、ブライダルやレストランを営む興味も無いサービス業の会社の話を聞かされる羽目になってしまったんです(笑)。しかしそれも何かの縁なのか、その会社のことを知るにつれ惚れ込んでいってしまい、最終的には入社していました。ただ、夢はやっぱり諦められず、「料理を体で覚えた後、子会社である設計事務所に出向。よりよい料理が出せるオペレーションを組めるキッチンの設計を」という5年後の目標を掲げて、キッチン専門職で採用していただいたんですが、なぜかブライダル部門に配属され、なぜかウエディングプランナーとして、5年ほど働きました(笑)。

学生時代に日本全国をヒッチハイクで旅した享楽の日々が忘れられず、退職後すぐに日本中をヒッチハイクで放浪。各地で散財した結果、長野で全財産が210円になったとき「そろそろ仕事しないと…」と、ようやく思ったんです(笑)。バックパックひとつで神戸に乗り込み、ある芸術家さんのお茶汲み兼かばん持ちをやっていました。そんなある日、「新しいドレスのブランドを立ち上げるから写真撮りに来てよ♪」と、挨拶程度の間柄だったバイヤーさんからお電話をいただき…。写真は趣味でやっていた程度で商業写真の知識などもちろん皆無でしたが、「ありがとうございます!!」即答してましたね。今でもそうですが、失うものなど何も無かったので。月末にタバコを買うお金も無いほどのジリ貧だったので、神戸から東京までチャリで行きましたよね(爆)。あの時の箱根の峠越えを思えば、大抵の事は辛いとは思わなくなりました。

月に1回だった撮影依頼が2回に、3回に…。「あ、これで食ってける」という非常に不純な動機でカメラマンとなったわけですが、その後もわくわくすると感じた仕事は断らずに「はい。できます。ありがとうございます」が口癖でしたね(笑)。物撮りから始まり、モデル撮影、箱撮り、映像やグラフィック、コピーやシナリオのライティング、Web構築や音楽のMix、最近では空間コーディネートや建築の構想プランまで国内外の様々な案件に関わらせていただきました。中でも、中長期的に企業と正面から向き合う人事採用構築のお手伝いをさせていただいた経験は何にも代え難い僕の大切な財産となりました。

骨を埋める覚悟で入社したPlanDoSeeと僕の夢を一緒に創ってくれた三原直さん、サーフィンの楽しさと朝昼週7の食事(笑)を与えてくれたStudioSetterの岡さんと廖さん、途方も無いほど高いと思っていた仕事のステージに立たせてくれたTREATの葉子さん、今一番やりがいを感じる映像の仕事のノウハウを惜しげも無く教えてくれたDotの深川さん、そして、現在可愛がっていただいてる皆様。ご縁と感謝の連続でこの数年を過してきました。これまでもこれからも、自分と自分の大切な人がHappyになれる選択をするというスタンスで色々な事に挑戦していきたいです。

THE TREAT DRESSING 2014 パンフレット撮影のワンカット

夢ですか？そーっすねー…。今後は…(沈黙)。僕、夢とか無いんっすよー(笑)。でも、今やりたい事も企んでいる野望も星の数以上ほどあるので、やりたい順に片っ端からやっていきます!! とりあえずは、2014年末より新しいプロジェクトを計画してるんです。4年間構想を温めたもので、すごく楽しみなんです!! あ!?そういえば夢、ありました。海辺に自分で家を建てて、釣りと自家菜園で腹を満たしながらサーフィンして暮らす事です(笑)。

村上洋平 Yohei Murakami (30)

生年月日	1983.11.23
縁	**99.99999…%**
その他	**0.000…1%**

「感謝を忘れず謙虚に生きる」をモットーに、自分と自分の大切な人がHappyになる以外の事は特に興味が無い(笑) それが村上洋平さんです!!

撮影からグラフィック、空間コーディネートまでマルチに活躍するなんでも屋さん

変態、ジャガイモ、怪獣等のあだ名で親しまれ、関東刃の鰻割きをこよなく愛する千葉北サーファー。最近一番嬉しかった事は、山口の地元にようやくドンキホーテとスタバができた事。

TREAT + Joe
Wedding Paper Anthology

THE TREAT DRESSINGがお届けするのは
女性ごころをくすぐる世界
誰もが好きで手に取った瞬間に 心から好きだと思える
可憐さと幸福感のあるもの

そんな私たちのエッセンスが込められた
ペーパーコレクションが誕生しました
デザインはジョー・マスザワ氏とのコラボレーション

どこにでもありそうだけど どこにもない
カラー・デザイン・マテリアル
そのすべてにこだわった特別なコレクションです

おふたりの大切な1日をもっと素敵に彩ってくれるはず
おふたりらしいウエディングを
ペーパーアイテムからかたちにしてみてください

山城 葉子

THE TREAT DRESSINGプロデューサー兼バイヤー。買付から店舗デザインまで全てを監修。世界中のアトリエを訪ね、まだ無名だったNYブランドを中心に自身の優れた感性でセレクトし、世界のトレンドを日本女性に発信。ジュエリー、ユニフォーム、オリジナルドレスのブランドも立ち上げ、株式会社トリートの全てをプロデュースしている。

ジョー・マスザワ

米国カリフォルニア生まれ。招待状はお客様の特別なシーンにおいて最初にゲストが受け取るもの。その第一印象の大切さを熟知した世界観からはこれまでの招待状では考えられなかった質感やフォルムが生み出され、受け取った人々を魅了し続けている。この感動が広まり、現在多数の有名人・著名人の結婚式や企業イベントの招待状を手掛けている。

ザ ノット color ○ ● ●

ピンクブラッシュ color ● ● ● ○

トリート color ●

フルーレット color ○

タイポグラフィ color ● ●

チェロ color ● ●